



↑ 水谷出張所の周辺状況

水谷出張所の職員と庁舎 →



立山カルデラ内の基幹堰堤



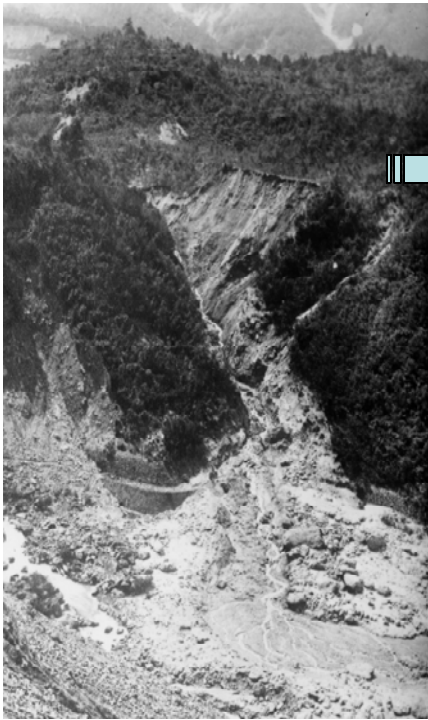
←白岩砂防堰堤

立山カルデラの出口に設置された基幹堰堤で、常願寺川の砂防計画の土台となる砂防施設

形式 右岸 重力式コンクリートダム
左岸 フィルダム
構造 本堰堤、副堰堤 7基
高さ 63m(本堰堤)
(副堰堤を含めると落差108m、双方とも日本一)
着工 昭和6年
完成 昭和14年(本堰堤、第1・第2副堰堤)
昭和53年(第3～第7副堰堤)

登録有形文化財 平成11年6月

砂防工事の効果（泥谷における緑の復元）



着工前の荒廃の著しい泥谷(昭和4年)



完成した泥谷砂防堰堤群(昭和13年)



昭和39年の災害復旧を経て
緑が復元した泥谷
堰堤20基 床固3基
登録有形文化財 平成14年6月

明治39年富山県による事業着手以来、一世紀にわたる砂防事業により立山カルデラ内では緑が復元しつつあるが、一方、未対策の部分では土石流が発生するなど、依然荒廃した状況である。現在でも約2億m³の不安定土砂が堆積しており、今後も砂防事業を継続する必要がある。

危険を伴う砂防事業



←急斜面における「山腹工事」の様子
滑落の危険があり、命綱をつけての
作業となる。

新しい技術の導入

危険な斜面では「無人化施工」により →
工事を実施

ロッククライミングマシンをのり面上部から
ワイヤーで支えて、急峻なのり面の掘削を可能
としたもので、作業の安全性の確保がされ、人
力掘削の約4倍の能力を有する。



立山の砂防事業を支える「砂防工事専用軌道」



↑立山の砂防事業に必要な資材や人員の輸送
手段として利用されている。

富山県の管理する林道とあわせて、水谷
出張所や立山カルデラ内への重要な移動手
段となっている。



登録記念物 平成18年7月